

令和元年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

東員町地域公共交通会議

平成24年7月2日設置

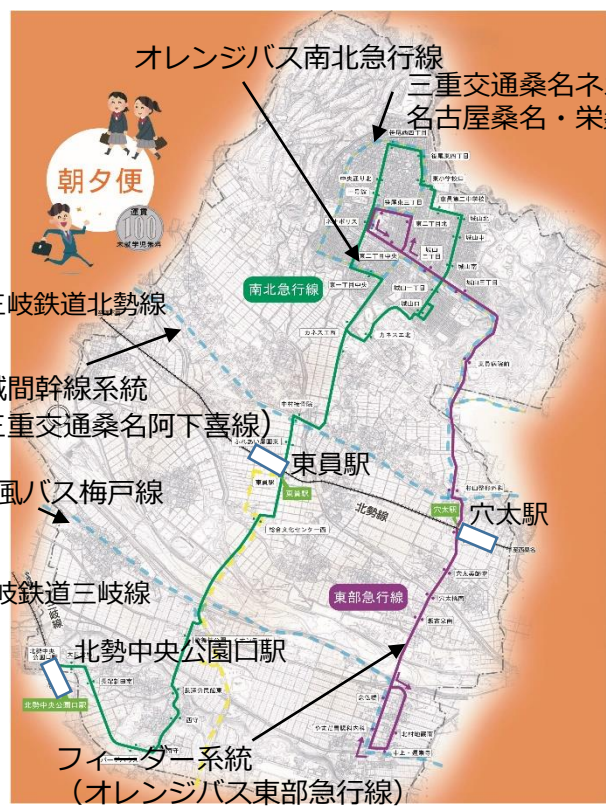
フィーダー系統 平成30年6月30日 確保維持計画策定等

■地域の特性と背景

- ・人口約25,500人。北部の住宅団地（笹尾・城山地区）の人口が町人口の約5割。団地は、同世代の入居により、高齢化が急速に進展。
- ・町の公共交通は三岐鉄道北勢線・三岐線、路線バス（三重交通、八風バス、三岐鉄道）、町運営のオレンジバス、タクシーで構成。
- ・「東員町地域公共交通総合連携計画」を平成25年6月に策定。平成26年10月からオレンジバスの再編を実施。平成28年10月から路線名称、ルート、ダイヤの一部変更を実施。

■連携計画の目標

- 町民の通勤、通学、買い物、通院、公共施設利用等の日常生活全般について利便性を確保
 - 公共交通空白地域をなくすことにより、自動車がなくとも移動できる環境を確保
 - 将来にむけたまちづくりを移動の面から支援し、地域の活性化につなげる
 - 地域との協働・連携により持続可能な公共交通を実現
- ・連携計画の期間
平成25～32年度



■交通ネットワークについて (主要な公共交通)

(1) オレンジバス

通学、買い物、公共施設利用等の目的に応じて、町内での幹線機能を果たすサービス水準の維持・向上を目指す。

(2) 鉄道 (北勢線)

名古屋市や隣接市町 (いなべ市、桑名市) を主とした通勤等における町外への移動の主要路線である。

民間事業であるが、ネットワーク形成上、重要な路線であるため、行政による支援等により路線維持を図る。

(3) 路線バス (桑名阿下喜線)

いなべ市にある総合病院への通院、桑名市内にある高校への通学、また、桑名市にある大型スーパーへの買い物利用と一定の需要があり、地域間連絡路線としての機能の維持を図る。



取組	概要	特色等
バス停検索・バスロケシステム、バス乗降カウンターによる精査	<ul style="list-style-type: none"> ・ オレンジバス利用促進のため、最寄りバス停及び行先、バスの位置を検索できるアプリを平成30年4月より運用開始。合わせて、オレンジバスに乗降カウンターを設置 	バス停別利用者数等のデータ整理が可能
通学用高校別公共交通時刻表の作成・配布	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校生の利用促進に向けて、公共交通を使った通学方法、ダイヤ、運賃を高校別に紹介。町内の中学3年生全員に配布 	オレンジバス、路線バス、鉄道利用の促進
バスの乗り方教室の開催	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「とういんわくわくフェスタ」(9月22日(日))でバスの乗り方教室、子ども鉄道服の記念撮影(北勢線啓発)を実施 	生活交通を考える会の委員が運営
北勢線サタ電車イベント時にオレンジバス無料乗車券の配布と啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・ PRチラシに無料券を添付し、オレンジバス利用を啓発。東員駅では、オレンジバスをPRするお菓子を配布。(お菓子は町内のお店が作成) 	三岐鉄道・四日市大学と連携。

1 地域公共交通総合連携計画の評価指標とその結果 【令和元年1月16日の地域公共交通会議
【目標】 オレンジバス利用者が前年より増加 で協議】

	H29年度	H30年度	R1年度	評価
オレンジバス利用者数	101,142人	104,092人	99,102人	×
対前年度	-	+2.9%	▲4.8%	

2 生活交通確保維持改善計画の評価指標とその結果

【目標】 オレンジバス年間乗車数105,000人⇒実績99,102人で目標未達成(5.6%減)

3 分析・評価

(1) オレンジバス ①利用者数

年間利用者数	南北急行線	東部急行線	南北線	東部線	総合計
令和元年度	17,724	3,099	65,877	12,402	99,102
平成30年度	19,437	2,464	68,833	13,358	104,092
増減 (R1/H30)	▲8.8%減	25.8%増	▲4.3%減	▲7.2%減	▲4.8%減

【評価】

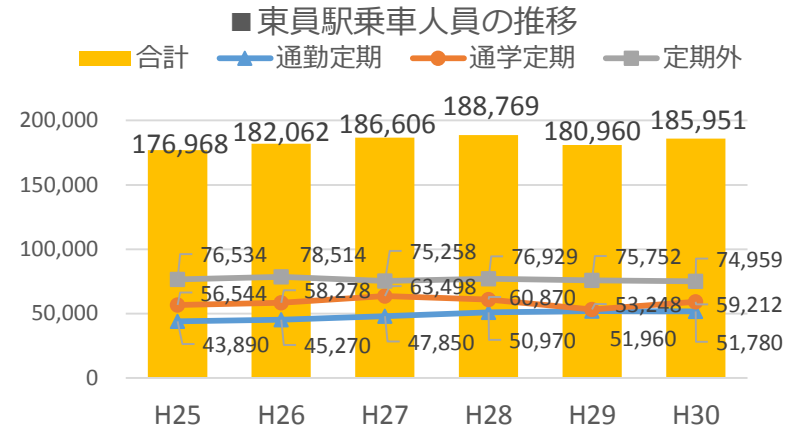
- ・昨年度は前年度から増加したが、今年度は再度減少。東部急行線は増加。
- ・H30年12月に車両故障のため6日間、一部路線が運休となったこと、高校生の利用減等が影

【響後の方針】

- ・町民利用については地道な利用促進活動の継続。車両更新、継続運行のための運賃についても検討。
- ・サッカー観戦者等の利用に向けた情報提供の強化を実施。

(2) 鉄道

- 三岐鉄道北勢線の東員駅の乗車人員は昨年度より増加しているが穴太駅は減少。東員駅は通学定期の利用者が伸びていることが理由として考えられる。穴太駅の乗車人員は減少しているが通勤定期の利用者は昨年度より増加しており、今後の施策を検討する必要がある。



(3) 路線バス

- バス乗車人員は昨年度より増加。東員町内には大きな総合病院や高校などはなく、通院、通学のためには広域利用が必要となる。路線バスは、隣接市の総合病院や高校へ向かうよう運行されており、並行鉄道（北勢線）とは異なるニーズに対応していると評価。

4 今後の方向性

- オレンジバス朝夕便（南北急行線・東部急行線）は鉄道乗り換え(桑名・名古屋、いなべ市方面)の利用が多く、昼便（南北線、東部線）はスーパーへの買い物、通院利用が主であり、ニーズに合ったルート・ダイヤになっていると評価。しかし、ルートが複雑でわかりにくいという意見があり、網形成計画の作成に合わせてネットワークの検討を行う必要がある。
- オレンジバスについては、町民利用だけでなく、サッカー観戦等の町外利用を促進するための情報提供を強化する必要がある。車両更新、運賃改正についても検討が必要。
- 町内の鉄道、路線バス、オレンジバス相互の連携強化に向けたネットワークの方向性を網形成計画の策定に合わせて検討する必要がある。

課題	対応方針	取組
<ul style="list-style-type: none"> ○利用者のニーズにあった利便性の向上 ・オレンジバスのターゲットの考え方について整理 ・利用実態を踏まえてオレンジバスの利便性をより強化 	<ul style="list-style-type: none"> ○町内公共交通ネットワークの考え方の整理（ターゲットの整理） ○通学利用の利便性向上 ○高齢者等のニーズの把握と利用促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・本町公共交通のターゲットとなる利用者と交通ネットワークの考え方を網形成計画の作成に向け整理する ・通学の利用実態の把握を踏まえて、オレンジバスダイヤの見直し等を検討 ・高校別時刻表等での利用促進 ・シニア層の利用促進のため、地区説明会等を開催 ・オレンジバス利用便利帳の活用
<ul style="list-style-type: none"> ○交通圏内の連携不足 	<ul style="list-style-type: none"> ○鉄道・路線バス・オレンジバス等が連携したネットワークの形成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットワークのあり方を網形成計画の作成に合わせて検討 ・交通圏内の自治体（いなべ市、桑名市）の交通担当者との密な連携策を検討
<ul style="list-style-type: none"> ○車両更新 ・オレンジバス走行距離が100万キロを超え、故障が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ○車両の更新 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年4月に2台を更新予定 ・3台目の更新についても検討
<ul style="list-style-type: none"> ○運賃の検討 ・オレンジバスを維持するため検討 	<ul style="list-style-type: none"> ○運賃改定と関連施策の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・運賃改定の検討 ・オレンジバス主な利用者である通学者、高齢者等への施策の検討

令和元年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（経緯）

東員町地域公共交通会議

平成24年7月2日設置

フィーダー系統 平成30年6月30日 確保維持計画策定等

直近の第三者評価委員会における事業評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
<ul style="list-style-type: none">・ 東部線の利用目的は北勢線アクセスから離れてきているのではないか。・ 継続して利用促進を図っていくため、網形成計画の計画的な取組に期待。	<ul style="list-style-type: none">・ 今年度から連携計画の評価などに着手。	<ul style="list-style-type: none">・ 令和2年度に網形成計画の策定を予定しており、その中でネットワークのあり方を検討・ 近隣の桑名市、いなべ市との連携策を検討
<ul style="list-style-type: none">・ 最寄りバス停・行先・バスの位置等を検索できるアプリの運用開始、利用促進の取組を評価。・ 乗降カウンターの設置により、乗降データの分析、バス運行の効率化につながることを期待。	<ul style="list-style-type: none">・ 乗降データの分析の実施	<ul style="list-style-type: none">・ バスロケ・バス乗降カウンターデータ等の活用による路線ごとの利用分析の実施・ 地域懇談会などにおいて、アプリの活用をPR

■多様な利用促進の取り組み

- ・公共交通の主な利用者である「高齢者」「学生」「子ども」を対象に、様々な主体と連携して実施。

①オレンジバス便利帳の作成（高齢者対応）

オレンジバス時刻表の見方、バス停に近い町内施設の紹介をまとめた冊子を作成。東員町シニアクラブと連携して、利用方法等の説明を実施。

②高校別時刻表の作成（学生対応）

中学校と連携し、町内の中学3年生に配布し、公共交通利用方法を紹介。

③サンタ電車イベントとの連携（子ども対応）

- 三岐鉄道・四日市大学と連携した三岐鉄道北勢線サンタ電車イベント開催のチラシにオレンジバス無料券を添付し、オレンジバスで来てもらうことを促進。（無料券利用者49名）
- 生活交通を考える会の委員は、オレンジバスの車内飾りつけ及び東員駅でサンタ姿でバスの利用促進をPR。



④バスの乗り方教室の実施（子ども、高齢者対応）

- 町のイベントに合わせてバスの乗り方教室、クイズ等を実施。
- たくさんの家族連れなどの参加を得た。公共交通への興味を持ってもらったと評価。



⑤オレンジバスの車両購入

- オレンジバスは走行距離100万キロ/台を超え、故障が多く、H30年12月には車両故障のため6日間一部路線が運休。
- このため、2台の新車を購入し、令和2年4月から運行予定。
- 新車運行に合わせて公共交通利用をPRする。

